

2020年12月期第2四半期決算発表説明会(2020年7月30日) での質疑応答

<質問者 1>

Q: 一つ目ですけれども、新開さんから売上の上振れについてご説明をいただいたのですが、分からないところが、もともとの決算発表のときからガイダンスを出されるときに、売上についてやや下に振ったところから、結局着地が上振れしたところでは。この見方と着地が変化したところについて、もう少しご説明をいただければと思うのが一つ目です。

A: 先ほども少しお話ししたとおり、第2四半期のガイダンスをお出しするときには、需要サイドとロジスティクスサイド、双方で比較的にコンサバティブにリスクを見積もっていました。

もう少しそのリスクの詳細を申し上げますと、上振れ幅に対して申し上げますと、102億円上振れのうち、約4割分は自動車向け事業のコンサイメント形式での売上であるとか、既にディスティ、チャンネルにオーダーを受けているものの、プッシュアウトであったり、キャンセルだったりといったものが、コンサバティブに見ると、これぐらい発生するであろうと見込んでいました。実際には、それが発現しなかったということになります。

もう3割はロジスティクスに関するもので、ガイダンスを提供する時点では、マレーシアにおける行動制限令がありましたので、この制限令の影響で後工程からの出荷、倉庫からの出荷が滞るであろうと見込んでおりました。実際はそこまで影響は出ず、出荷がスムーズにいったことによって、売上につながっているといったものがあります。以上です。

Q: どうもありがとうございました。よく分かりました。

二つ目は、在庫のところでは。これも新開さんがご説明の中で触れていただいたわけではありますけれども、2Qの在庫として、御社における在庫の水準として、どのようにお考えになっているのかと、9月の終わりには、どのように見えているべきであるとお考えになっているか。

あとは、自動車チャンネルの在庫についても、9月末の在庫の見え方、こうあるべきだというアイデアがありましたら、共有していただければ幸いです。以上、2点目です。

A: (新開) まず、自社在庫についてですが、これは第3四半期、第4四半期にかけて、おおむね去年末と同じ程度に順次縮小していくことを見込んでおります。その影響が、先ほどご説明した第3四半期のグロスマージン影響として表れてくることとなります。

右側のチャンネル在庫につきましては、第2四半期末の水準は、特に自動車向けにおいてかなり過剰だと考えていますので、第3四半期にかけて少しずつ減少していく、適正化していくことを見込んでおります。以上です。

(柴田) 1点補足します。業界の他社もやっていることだと思いますけど、今回、このタイミングをきっかけとして、発注に関する、あるいは当社から見た場合の受注に関するリードタイムを、ある種、業界のスタンダードに合わせる取り組みを始めました。

その結果として、主に日本の販売パートナーである特約店については、恐らく従来よりは少し在庫を積んでいくと。そんなに大きな幅ではないと思いますけど、2割程度は在庫を、余分にとにかく、従来に比べると多めに持って運営していく格好になろうかなと、今、推定、もしくは推測をしています。

具体的には、始めたばかりなので当初はでこぼこする場面があるかもしれませんが、オーダーに関するリードタイムを業界標準に合わせる取り組みによって、少しこの在庫の持ち方、見え方が、今後構造的に変わっていく可能性があることだけお含みおきいただければ幸いです。以上です。

Q: 今のところですけども、もともと自動車の半導体については、数字が正確ではないかもしれませんが、30日程度であったものを45日程度にしようという動きがあったと思うのですがそれから追加的にまた増やそうという動きでしょうか。

A: 増やそうというわけではないのですが。繰り返しになりますが、私たちはこれまでは、特に日本のチャンネルパートナーからはかなり短いリードタイムでオーダーを受けていました。もう少し業界標準的なリードタイムに今回、合わせようということです。

Q: リードタイムですか。失礼しました、在庫と勘違いしました。ありがとうございます。

最後、三つ目ですけども、3Qに関しては、自動車はQoQ微減で、産業・インフラ・IoTが微増というガイダンスでした。これが、今見えている中で、どのようなタイミングで底離れしていくのかについて、今見えている絵について教えていただけたらと思います。以上、3点目です。

A: 主にデマンドのアウトルックに関するご質問かなと理解をしました。

それで申し上げますと、もちろん先のことはまだ、第2波、第3波によって変わってしまう可能性はありますが、本日時点で申し上げますと、オートモーティブについてはセカンドクォーター、サードクォーター辺りが微減、もしくはflattishに推移していき、最終クォーターにかけて、ぐっと立ち上がってくるという姿を予想しています。

オートモーティブ以外は、実はコロナによって、むしろ需要が急増したアプリケーションもそれなりにありまして、それらの遅れ注残がちょっと積み上がっています。なので、動き方がちょっと違っており、サードクォーターにかけて遅れ注残を何とかキャッチアップしていき、その反動でフォースクォーターは少しサードクォーターより下がって見えるような感じになろうかと思います。

おおむねオートモーティブ以外は若干サードクォーター強めに出て、フォースクォーターで実際の姿に戻るというカーブで、オートモーティブは2Q、3Qがやや底這って、4Qにかけて上がっていくようなカーブを現時点では予想しています。以上です。

<質問者 2>

Q: 似たような質問ですけども、在庫の今後の調整に関しまして、チャンネルのところは3Q末に向けて調整を進めるということですが、それがどれぐらいまで適正水準になるのにかかるのかを教えてください。

特に今、業界全体でCOVID-19の第2波を警戒して、BCP在庫は今までよりも高い水準にあると思うので、適正な在庫水準が少しわれわれからすると分かりにくいので、御社の目から見て、チャンネル在庫の調整がどれぐらいまでかかりそうなのかを、最初に教えていただけますでしょうか。

A: 在庫の調整と言うと、何となくネガティブな響きを持つてしまうのですが、先ほどお話ししたように、COVID-19によって需要が急減して、また急に戻ってくるという変化が一つありました。それと、もう一つは、さっきお話ししたことの繰り返しになりますが、今回から受発注のリードタイムをアジャストしています。これによって適正在庫水準が、チャンネルにおいて恐らく少し増えるだろうと見込んでいます。

その辺、もろもろ合わせていくと、調整というか、定常状態になるのは来年のファーストクォーターからセカンドクォーターにかけてになるかと思います。それまでの間は、多分ちょっと下がったり、またちょっと上がったり、定常状態に入る前の試行錯誤が少し見られてくると思いますので、定常状態になるのは来年の1Q、2Q辺りと考えています。

あとは、在庫の全体の水準というか、レベル感で過剰感があるのかというところをご質問の肝かなと理解をしていますが。これは在庫の金額と売上見通しとの両方の相関で動いていくものなので、何とも言いにくい部分はありますが、今は、端的には在庫が少しチャンネルに滞留している過剰感があるのかなと考えています。本来であれば、それはこのサードクォーターから年末にかけて適正水準に収れんしていくというカーブを見込んでいいと思います。

ただ、加えて、くどくなりますが、先ほどお話ししたように、受発注のリードタイムを変えていますので、その影響で、例えば年末にかけても高水準でチャネルの在庫が推移していくことは十分に考えられます。少なくとも来年のセカンドクォーターぐらいまでは、あまりクォーターごとの上がった下がったについて、どういう要因だということを詮索し過ぎても仕方がない状況が少し続くということだけご容赦いただければ幸いに存じます。以上です。

Q: ありがとうございます。

確認ですけど、そういう意味では、来年の前半まで少し調整というか、在庫の定常化にまでは時間がかかるので、前工程の稼働率もランレートの65%とか、70%ぐらいだと思いますが、そこまではなかなか、70%という稼働までには回復してこないという捉え方をしておけばよろしいですか。

A: 在庫調整起因というよりは、工場の稼働は最終的にはデマンドのアウトルックがディクテーションするところが大きいと思っています。

今見えているピクチャーで申し上げますと、70%はちょっと強いなという感じがします。どうしても自社工場で作る製品は自動車向けが多いので、いろいろな機関がレポートを出していますけど、自動車自体の生産台数が昨年水準に戻るまで、一声2年かかると言われているぐらいの水準なので、当社としても同じぐらいの期間は工場の稼働が上がっていくまでかかるのだろうと考えています。以上です。

Q: ありがとうございます。

最後に、冒頭、柴田さんがプレゼンされていた、アウトルックに対して安心感を感じているというところを、前回ガイダンスのときと比べて、何が具体的に変わって、どういったことを感じられているのか、もう少しかみ砕いて教えていただけますでしょうか。以上です。

A: オートモーティブ以外は、中身は出っ張り引っ込みありますが、まあまあ総じて堅調だということを前回申し上げた記憶でいます。それはきょう時点でも変わってなくて、むしろ少しだけポジティブかなと。特に年末にかけてのアウトルックが前回よりは少しポジティブになったかなと私自身は感じています。

主に感じ方が大きく変わったのはオートモーティブのほうです。前回ガイダンスをご提供したときには、一体どこまでこれは落ちるのだろうと、あるいは一体どこまでそのトラフが続くのだろうというところに相当な不安を抱えていました。

繰り返しになりますが、今回、受発注のリードタイムをアジャストしたことによって、かなり先までのビジビリティが今はあります。なので、一つは、私たちに対する受注というか、発注というか

のビジビリティが上がったことによって、良くも悪くも見通しが立ちやすくなったことが一つあります。

それから、これは私たち固有の要因ではないと思いますが、自動車の生産も想定した中で言うと、かなり良い方向で立ち上がってきていることによって、これまでも繰り返し申し上げているとおり、私たちとしては事業運営上、需要の幅を持って、レンジ感を持ちながら運営していて、そのレンジ感の中で言うと、かなり上に近いところで今は推移してきているかなと。それによって、特に今年のアウトルックについては、前回よりはコンフォートレベルが上がったと申し上げています。以上です。

<質問者 3>

Q: 1点だけお伺いしたいのは、ミックスの改善で収益性が上がっているというお話があったと思いますが、ここをもう少し詳しく教えていただきたいです。

産業・インフラのデータセンター向けとかかと想像はしますが、その改善、また、車の中でも改善があったりするのかと、今後の継続性を教えてください。以上です。

A: ミックスの改善は大きく分けて二つありまして、一つは全社トータルで見ると、自動車向けのビジネスが減少して、相対的に産業・インフラ・IoT向けのビジネスが増えています。グロスマージンで20%ポイント近く差がありますので、これによって全社のグロスマージンに、かなりポジティブに貢献してきますというのが、製品ミックスの貢献の半分くらい。

もう一方が、自動車向け事業の中身の生産ミックス改善が第2四半期には寄与してしまして、自動車向け事業のプロダクトのうち、相対的にマージンが低いものの売上が減少しているというものです。

継続性という観点で言うと、前者は自動車向けのビジネスが回復してくると、その部分は減っていきます。後者は、一時的なものもあれば継続的に効いてくるものもあり、ここは今後プロダクトミックスの改善として一部効いてくると考えております。以上です。

<質問者 4>

Q: 一つ目ですが、御社の非自動車のところ、データセンター関連、ネットワーク関連は、上期の好調を下期も一部継続する部分があるかもしれないと考えています。3Qのインフラ関連の健全さ、継続性について追加コメントをいただければと思います。

A: データセンターを中心に、特にサードクォーターにかけて、どんなアウトルックかと受け止めてご回答させていただきます。

データセンター向けは、これまでと同じくらいのペースで強めに見ています。シーケンシャルにローダブル・ディジットぐらいのグロースです。YoYで言うと、30~40%ぐらいの伸びを引き続き見込んでいて、グロースの非常に大きなドライバーになっています。

あとは、インフラストラクチャー全体で申し上げますと、以前からお話ししている5G向けのベースステーションは非常に大きく立ち上がっていますが、一方で4G向けがかなり大きく下がってしまって、インフラ全体としては、例えばこれまではミュートドグロースと、場合によっては若干マイナスということが続いていました。

このセカンドクォーターからサードクォーターにかけて言うと、どうしてもベースステーションはクォーターごとにlumpyに動くので、必ずしもきれいなピクチャーにはならない部分がありますが、総じて言うと、5G関連はシーケンシャルには少し下がるかなという感じはしています。

ただ、YoYで言うと100%近い成長で、これまでお話ししたデータセンターと5Gの成長ストーリー自体は変わっていないというか、特にデータセンター向けは、これまでお話ししていたよりも少し強めで推移しているかなというのが足元の実態だと思います。いったん、以上です。

Q: ありがとうございます。

二つ目ですけども、最近、JEDECさんで、新しいDDR5の基準も、ファイナルスペックも決まっています。御社のメモリーインターフェース関連のビジネスは今後、大体どういう成長ペースになっているのか、ここを詳しく説明いただければと思います。

A: こちらも、ベースステーション同様にlumpyというか、choppyに動くことがあります。チャンネルにおける、あるいはユーザーにおける在庫調整が、特に昨年あったのは、皆さんご記憶にあるかと思います。そういった要因によって、必ずしもリニアに伸びていくわけではないのですが、今、ご指摘のDDR5は、非常に大きな成長ドライバーであることは間違いなくて、それが故に、メモリーインターフェースも近い将来非常に楽しみな気持ちで眺めています。強気です。以上です。

Q: 分かりました。ありがとうございます。

最後ですけれども、ファウンドリのアウトソース比率です。2Qの実績と、3Q、4Qの見方は大体どのくらい伸びているのか、下がっているのか。これが最後です。お願いします。

A: ファウンドリは、そんなにQoQで上がったり下がったりは大きくしませんが、ウェハファウンドリについて言うと大体バリュースペースで言うと4割ぐらいです。

特にオートモーティブの40ナノのマイコン、RH850というマイコンとSoCが、これまでお話ししているように、継続的に立ち上がって大きくなっていますが、これは全部ファウンドリにアウトソースしていますので、今後もコンスタントに上がっていくとお考えいただいて間違いないと思います。以上です。

Q: SoCのところですが、2Qから3Q、4Qに、プラス成長を見ているのでしょうか。

A: これも難しく、SoCは非常にリードタイムが長いので、先ほどお話ししたようなリードタイムの調整とも相まって、シーケンシャルに見ると、このサードクォーターは若干スローダウンしたように見えてくると思います。

ただ、ハーファイヤー、もしくは1年にならしてみると、かなりのペースで上がってきますし、特に今、サード・ジェネレーションがようやく立ち上がってきましたので、サード・ジェネレーションはSoC全体の10%ぐらいになっています。これが大きく立ち上がってきますので、来年にかけて相当伸びると思います。以上です。

<質問者 5>

Q: まず、自動車のところですが、先日、決算を発表されたNXPさんはQoQでプラス20%ということで、御社の横ばいよりはかなり強い回復を見込まれています。また、自動車の生産台数ベースで見ても、多分4-6月から7-9月にかけてはもっと戻ると思いますが、御社が横ばいと見込まれているのは在庫が理由なのか、その辺を少し解説ください。これが1点目です。

A: 一言で申し上げると、在庫だと思っています。もうちょっとカラーをご提供すると、当社の売上の中を見ても、直販で販売している先、主に非日系は大体業界の他社と同じような動き方をしています。

それに対して、日系の顧客に対しては間にチャンネルが入ってしまっていて、それによって動き方が、下がるところも随分穏やかでしたが、上がる場所も穏やかになるということだと思っています。以上です。

Q: 分かりました。

この点でフォローアップですが、ということは生産台数が今、戻りが見えているので、それもあって見通しが少し自動車のところで明るくなっているという理解でよろしいですね。

A: はい。結構です。

Q: 分かりました。ありがとうございます。

2点目が、ワーク・フロム・ホームや、ステイホーム需要の仮需のインパクトが今はどれぐらいあると見られているかをお聞かせください。PC向け等々で4Qには下がるというお話は従来からされていると思いますが、もし規模感が分かれば、医療機器、PCや、長続きはしないだろうと思われるものが今、このインダストリアル、産業・インフラ・IoTのところでどれぐらい入っているか、もし分かれば教えてください。

A: あまり自信を持って答えられる気がしないのですが、インパクトはそんなに大きくないと思います。せいぜいダブル・ディジットの下のほうの億円ぐらいの金額が特需的に入ってきて、それが下がっていくかなという感じですかね。

なぜそんなことを申し上げるかというと、PC、タブレット需要は、前回お話ししたときに比べると、ちょっと続きそうですね。

私たちのオーダーを見ていても、あれ、という感じでちょっと続きそうで、特にエデュケーションマーケットなど、結構コンスタントに入ってきているので、あら、と。今年の前半でどんと入って、後半にばんと落ちちゃうのかなと思ったら、そうでもなさそうだなという感じがしています。

なので、本当に個人が一時期ぱっと買ったPCとか、家庭用のプリンターとか、そのくらいが上がって下がるということなので、当初思ったよりは随分下がりインパクトも小さいかなという感じです。それもあって、あまりここを注意深くトレースしていません。以上です。

Q: なるほど。医療機器とかはいかがでしょうか。

A: 医療機器は、金額自体はもともと小さいのですが、これは相変わらずいい意味で悩ましいと言えます。今のところアウトルックは、今年いっぱいはまだ強く見えています。でも、前回ここは言うことも、考えも変わってなくて、どこかで調整するのではないかなとは今も思っていますが、あまり確たる根拠があって言っているわけではないので、このまま強く行ってくれたらうれしいなというくらいのお話です。金額は小さいです。以上です。

Q: 分かりました。

最後に、年間の見通しについての、マネジメントからの今の見方をお伺いしたいです。きょうのお話からすると、産業・インフラ・IoTのところ、期待していた5Gとかデータセンターの需要に支えられてしっかりしているので、自動車向けの戻りもあるので、アウトルックに対しても少し楽観になり、それから業績の回復、伸ばすところに関して戦略がはまっている認識をされているという理解でよろしいでしょうか。

A: そんなに強いことを言うほど自信があるわけではないのですが、前回お話ししたときに比べると、随分リラックスしていますという感じでしょうか。

オートモーティブ以外のところについて言うと、いい意味であまり変わっていません。ただ、先ほどのエデュケーションマーケットのPC需要ではないですが、特にIDTを買った後、センサや、センサシグナルコンディショナが私たちのポートフォリオに加わっていて、この辺は当然伸びますし、引き合いもすごく増えています。ですので、このポストコロナで、むしろこの辺は総じて追い風にはなってくるかなと思います。

繰り返しのなってしまうのですが、オートモーティブのほうが、やはり全需が相当沈んでしまうので、最終結果としての数字がぐいぐい伸びていく状況に早く戻れるかということ、それはちょっと時間がかかるかもしれないと思っています。この辺は来週お話をします。

それから、オートモーティブはどうしても足が長いので、インカムステートメントに表れるような結果が出るまでは、かなりの時間がどうしても必要になってしまいます。これは仕方がないです。

一方で、足元のデザイン・イン、あるいは私たちのソリューションのラインアップに関する進捗を見ていると、戦略がはまったというか、戦略に沿ってプロGRESSがかなり見えてきているので、そういう意味で言っても、2月に皆さんに中期戦略をお話ししたときに比べると、いいのではないかと思います。

ただ、短期的に向こう2年ぐらいは台数ベースの全需が厳しい状況が続くと思いますので、この間をどうつないでいくのかというところは、もうちょっと知恵を絞らなければいけないと思います。

あまり今回のコロナとか、あるいは全体のエコノミーのスローダウンによって、すわとって何か大きく変えなければいけないとは全く見えていなくて、むしろこれまでの延長線上で、どこでtweakしていくかと考えたらいいのではないかということが、数字によって裏付けられてきている感じではないかと思います。以上です。

以上